

アブラハム ①

□アブラハムの信仰の手本

1. 約束の地を与えるという神の召しに応答して、行先を知らずに、生まれ故郷を離れた
2. 約束の地に入っても、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた
3. 子が生まれるという神の約束を、不可能でも信じた
4. 土地の約束と子の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した
5. 目の前の土地ではなく、より優る国、神の都を求めた

□本日の内容・・・1番目、約束の地を与えるという神の召しに応答して、行先を知らずに、生まれ故郷を離れた

- (1) アブラム。生まれはアラム（今のシリア）のハランという町。父親はテラ。
- (2) テラは、アブラムが生まれてから、メソポタミアのウルという町（今のペルシャ）に転居した。ハランもウルも、月神を拝む信仰の中心地で、立派な建造物のある都。アブラムは、ウルにて、最初に神の召しを受けた（使徒 7：2～5）。父テラも連れて、神が示す方角に向けて旅に出た。その途中、アラム地方のハランにまで来たところで、父テラは、それ以上の旅を望まず、ハランに留まった（創世記 11：31）
- (3) アブラムの妻は、サライ。サライは不妊の女で、アブラム夫婦には子がいなかった。なお、アブラムとサライは、後年、神によって名を変えられ、アブラハム、サラという名になる。この点、詳しくは3番目で。
- (4) 父テラがハランで死んだとき、再びアブラムに神の召しが出た。彼は旅を再開し、カナンの地、今のイスラエルに到着した。このとき、アブラム 75 歳（創世記 11：32～12：7）
- (5) ヘブル 11：8 は次のように記す。「**信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出ていきました。**」

□本日の勧め

アブラハムは、神の召しを受けて、行先を知らずして、生まれ故郷を出ました。このことは、新しく信者になった方々にも通じるものがあるでしょう。まだ聖書のことはよくわからないが、キリストを信じて信仰生活に踏み出したからです。神がアブラハムを召されたのは、アブラハムを祝福し、アブラハムの信仰にならう全世界の人々を祝福するためでした。新しく信者になられた方々にも、神は祝福を用意しておられます。